

夏期離島実習後半 肝付コース 事後レポート

鹿児島市から約3時間かけて肝付町立病院に到着し、初日は院内見学をさせていただいた。町内唯一の有床病院であり、最も近い二次医療機関までの移動に1時間程度かかるため、各種検査からがんなどの比較的大がかりな手術まで行わなければいけないとのことだった。

2日目は午前中に岸良診療所に行き、施設・設備を見て、診察の見学、血圧測定もさせていただいた。診察中や診察待ちの患者さんの話から、肝付での様々な暮らしぶりをうかがうことができ、肝付という土地についての理解を少し深めることができた。それによって、今までの僻地のイメージをより具体化することができた。また、午後は町立病院に行き、病棟をまわった。看護師の方々と一緒にまわり、介助浴の様子を見て、おむつ替えを実際に手伝った。寝たきりで意思疎通もできない患者さんがいる一方で、意識がしっかりしていて自由に動ける患者さんもいる。そのため患者さん一人一人にあった対応、特に重度の患者さんへの対応をこの日は意識して看護師の方々の様子を見た。

3日目は終日町立病院での実習となった。午前中に整形外科の先生の外来を見たり、エコー、胃カメラの様子を見たりした。整形外科の先生は長崎から週1回、エコーを担当していた先生は2週間に1回定期的に肝付に来て手伝っているとのことだった。午後は手術を見学した。下肢静脈瘤を取り除く手術であった。患者さんが術中、麻酔を打たれていたにもかかわらず、不安のためなかなか眠らないままであり、言葉を発していたのは意外だった。術中患者さんは眠り、話すことはないと思っていたからだ。この日の午後の実習は手術見学で終わり、19時から21時まで懇親会を開いていただいた。院長、診療所長、

看護師長、庶務係長等の方々と海鮮料理をいただき、肝付の住民の方々の日々の様子や暮らしかた、離島の診療所の様子などをうかがい、有意義な時間となった。

4日目の午前中は、ストレッチャー浴の体験をした。休憩を挟みつつ約3時間の間に約10名の患者さんの入浴を手伝った。私たちは体を洗い、服を着せるだけだったが看護師は患者さんをベッドからストレッチャーにのせ、最後にベッドに戻すまでするので、かなりの重労働である。午後はJAXAと叶岳の展望所に行った。ハイテクな設備や肝付の海を見ることができ、忙しい実習の中でリフレッシュできた気がした。

そして最終日、午前中は岸良診療所に行き、午後は回診に同行し、各病室を廻った。

院長先生が「見るだけでは無意味だ」として、看護師の業務を長時間体験させてくださった。超高齢社会の日本に必ず現れる、高齢者しかいないような医療現場の姿を早い段階で知ることができたことは、とても貴重な経験であった。自分の知らなかった世界を目の当たりにし、その中で活動できたことは、嬉しいの一言に尽きる。私がこの実習を通して作った和歌は

先生の 顔見て元気 ひと安心 回診のたび 笑みがこぼれる

である。背景は、実習最終日の回診のとき、院長先生が患者さんに質問をしていきこれからの治療や薬、食事をどうしていくか検討しているときに患者さんが「先生の顔みたら元気になった」と言う場面が多く見られたため、先生と患者さんとの間には信頼関係が築かれているのだときづき、自分もこのくらい患者さんに信じてもらいたい、患者さんを安心させてあげられるようになりたいと思ったことである。

地域医療実習レポート

私は、今回肝付町での実習に参加しました。

一日目は、車と船を乗り継ぎ、肝付町立病院に到着しました。外来見学をさせていただき、ここに本当に多くの高齢の患者が通っているということを実感しました。畑仕事などのせいなのか、足腰の痛みを訴える患者がとても多い印象を受けました。二日目は、肝付町立病院から車で少し離れたところにある岸良診療所に向かいました。肝付町立病院から出張診療という形で、週二回、午前中に診療を行っているということで、その様子を見学させていただきました。まず初めに、こんな場所で診察なんてできるのかと思いました。コンビニより小さな建物の中で何人もの患者の診察をし、さらに薬まで処方するのです。私はその光景に感動するとともに、この診療所が、地域に住む人々にとってかけがえのない場所であることをしみじみと感じました。三日目は、午前中にリハビリ室を見学し、その後、整形外科の先生の外来や、CTの様子も見学しました。興味深い診察ばかりで、私にもっと医学の知識があればよかったのにと悔しく思いました。そして、私の楽しみにしていたイベントの一つである下肢静脈瘤の手術が行われました。一時間半に及ぶ手術は、先生曰く、今回は簡単な部類、だからと言って油断はできないとのことでした。人の命を預かる責任の重さや、絶対にやり遂げなくてはという強い使命感を目の当たりにしました。四日目はストレッチャー浴の手伝いをさせていただきました。蒸し暑い中、とても体力のいる作業ばかりで、看護師・介護士の方々の仕事の重要性や大変さをしっかりと体験できました。午後からはJAXAの内之浦実験場に行きました。かの有名な小惑星探査機はやぶさもここから打ちあがったそうです。夜は星空がとてもきれいだったので、なるほど確かにここは宇宙に最も近い場所なのかもしれない、と感じました。最終日は再び岸良診療所で外来見学をさせていただきました。高齢化の進むこの地域が対面する問題、例えば治療を怖がって拒否する患者や、認知症のため薬を管理できない患者、金銭的な不安を抱えて体調を悪くしてしまった患者など、多くの実例を現場で直面できたのはとても貴重だったと思います。最後に、回診の様子を見学しました。多くの患者が先生の姿を見ると、どこかホッとしたような表情になり、近況の報告をします。先生もうんうんと頷き、これからの治療の方針を考えます。このやりとりに私は医療の在り方を見ました。医師と患者の間にできる信頼関係が医療においてとても大切であるということです。

まだまだ課題の多い地域医療ですが、それらの問題をこの一年生という早い段階で考えることができたのはとても良い経験となりました。

俳句：命の輪 人の輪つなぐ OS1

OS1が熱中症対策に良いと聞いた患者さんがそれについてしきりに感心し、待合室の他の患者さんに嬉しそうに話していたのが印象に残ったので作りました。先生は、正しい情報が広まるのはいいけど、よくでたらめな話も広まるから困るんだよ、と苦笑いしていました。病院は、人々のコミュニケーションの場としても機能しているのだと感じました。